

吉田 貴紀(愛知)

オスモ&エーデル株式会社 名古屋支社

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-20-9 三晃ビル4F
TEL:052-253-9221 FAX:052-253-9226



暮らしの理想をドイツから

自然を慈しみ、良いものを長く使い込む。ドイツの人々は、光や風など自然のエネルギーをうまく取り入れながら健やかで快適に過ごす時間を大切にしています。『ゲミュートリヒ』はドイツ語で居心地がよい、寛いだ気分を意味する住まいの理想を表現する合言葉です。オスモ&エーデルはこうした理想の

暮らしを追求するこだわりの建材を日本にご紹介しています。

今から約30年前に輸入開始した『オスモカラー』は、シックハウス症候群が社会問題化した1990年代に、木の呼吸を妨げず、木の質感を残しながら美しく仕上がる無公害木材保護塗料として日本市場で受け入れられ

てきました。今や「安心安全」は当たり前ですが、ドイツは環境や人に負荷のかかるものは徹底的に取り除く文化があります。

CO2排出規制は自動車業界のみならず、建築物の省エネ化も世界の先頭を走っており、冷暖房に頼らず、

心地よい毎日をすすめる断熱気密性に優れた樹脂サッシ、太陽熱は窓の外で遮るのが一般的なドイツでは外付けブラインドが広く普及しています。

どちらも日本では馴染みが薄いですが、『脱炭素』が叫ばれる昨今、日本でもようやく住宅・建築分野における省エネ義務化の動きや、ZEH・ZEBといった需要の高まりを受け、年々ご採用いただく機会が増えてきました。

『オスモカラー』の塗装体験、幅広で21mm厚の無垢フローリング『オスモホルツ』の踏み心地、日本では見かける機会の少ないドレーキップ・パラレルシーベ窓『エーデルフェンスター』、外付けブラインド『ヴァレーマ』の展示、ついでに輸入販売している美味しいドイツワインもご用意しておりますので、是非、名古屋ショールームへ皆さまのご来場を心からお待ち申し上げます。



建築確認検査、住宅性能評価、

住宅かし保険、構造計算適合性判定、

省エネ適合性判定などの業務を行っています。



一般財団法人 愛知県建築住宅センター



CONTENTS

法人協力会通信 56

オスモ&エーデル株式会社 名古屋支社 ——— 表紙裏
吉田 貴紀

地域会だより ————— 1

連載【隔月 全6回】

morinosに見る木造建築の設計手法
第1回—morinosの建築計画と木材利活用— ————— 2
辻 充孝

愛知発：職能・資格制度委員会 活動報告

建築家資格制度座談会 ————— 4
杉本 憲治

三重発：活動報告

環境セミナー「マイクロプラスチックと海洋汚染」 — 5
西出 章

自作自演 248

「緑萌え出で花は近く・春は還る」希望の蝶春! ——— 6
鈴木 利明ちょっと気になる移ろい ————— 6
鈴木 慶智「JIA東海住宅建築賞2021」記録集完成 ————— 7
脇坂 圭一三重地域会会報アーキテクトみえ
32・33号を発行しました ————— 7
服部 昌也

保存情報 第245回

データ発掘：本宮山 砥鹿神社奥宮 ————— 8
中澤 賢一編集後記 ————— 8
降旗 範行・大橋 康孝コルゲートハウス「川合健二郎」報告 その3 ————— 9
黒野 有一郎・山田 晋平

■JIA静岡地域会

・未定

■JIA愛知地域会

・5/13 第12回役員会(WEB併用)
・5/13 2022年度通常総会(WEB併用)、講演会、懇親会

■JIA岐阜地域会

・未定

■JIA三重地域会

・5/20 第2回役員会(WEB会議のみ)

Bulletin Board

講演会

JIA東海支部総会・総会記念講演会

2022年 5月 13日(金) WEB(ZOOM)との併用開催

場所：ラグナスイート名古屋 1F (名古屋市中区錦3-12-13)

※会場参加は人数制限があります。

13:50~14:30 愛知地域会総会

15:30~16:10 東海支部総会

16:20~16:50 六鹿会長ご挨拶

17:00~18:30 講演会 講師：佐藤尚己 JIA次期会長候補

※CPD2単位取得(講演会に90分以上ログインしていただいた方のみ単位付与)

※WEBにて総会・講演会視聴およびCPD単位ご希望の方は下記URLまたは

QRコードより事前にお申込みください。

URL: https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_V5VeudANQamydzxTsDO5_Q公益社団法人 日本建築家協会東海支部
東海支部 事務局

〒460-0008 名古屋市中区栄四丁目3番26号 昭和ビル5階

TEL 052-263-4636 FAX 052-251-8495

Mail shibu@jia-tokai.org

表紙

街で見かけた風景 ②

▷「セレンディピティ」

このビルの前を通るとサインによるコミュニケーションの難しさを考えさせられたり、住人のほうが管理人より長く住んでいて既得権を主張しているんじゃないかと想像を掻き立ててくれる。未永く生きながらえて欲しいビルだ。

serendipityとは、予想外のものを発見して幸福になること。

イギリスの政治家にして小説家であるホレス・ウォルポールが1754年に生み出した造語である。



吉元 学 (JIA愛知)

ワークキューブ/愛知淑徳大学

morinosの建築計画と木材利活用

1. はじめに

今月から隔月6回にわたって小規模ながら木造建築のエッセンスが詰まったmorinos(モリノス)を例に木造建築の設計手法を紹介させていただくことになった。

morinosは、岐阜県立森林文化アカデミー敷地内に計画した森林環境教育の拠点施設である。

国土の2/3を占める森林は、木材供給だけでなく、感性を育む空間利用や豊かな生態系の維持、防災機能などを備える貴重な資源である。その豊かな森林を身近に感じられるように、子どもから大人、個人から企業まで、森林体験プログラムや森のようちえんなどを通して、多面的活用を幅広くサポートできるように計画した。

そのため、建物の随所に森林資源の様々な活用事例を埋め込み、多種多様な来場者への対応として温熱・省エネ性能などの各種建物性能にも工夫を施している。

第1回は、建築計画と木材利用について解説する。

2. WSで第三の計画案をつくる

本施設の構想のきっかけは教育連携を結んでいるドイツのロッテンブルク林業大学との関係で訪れたドイツBW州の環境教



BW州最大の環境教育施設HAUS DES WALDES (ハウス・デス・ヴァルデス)

育施設HAUS DES WALDESにある。

この施設は林業だけにとどまらない森林の多面的機能がわかりやすく伝えられており、日本でも同様の施設が求められていると感じた。

岐阜県は、森林面積が全国5位、森林率は全国2位の森林県である。ここに日本初となる「森の入り口」となる施設を建設するという知事の決断で2018年にmorinosの計画が始まった。

まずは、本学学生による1週間の短期設計ワークショップで基本構想を練った。本学は、木造建築だけでなく、林業、森林環境教育、木工の専門家、学生が集まっており、様々な知見が集約されている。それらの意見も聞きながら計画案を作成した。

WS最終日のプレゼンには、本学の特別



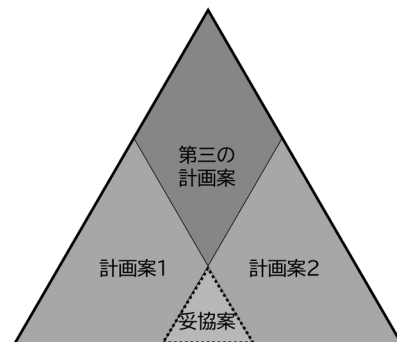
最終日の設計WSの様子。手前が筆者、右が隈氏、周辺に学生や教員が並びみんなの意見を具体化していく。

招聘教授である隈研吾氏にも参加いただいた。

2つの学生グループ案を講評していたが、両案とも光る部分に加え、未熟な部分も残り、どちらの案をベースにするかの議論も行われた。最終的に、両案の光るところを継承しつつ、新しいアイデアも加えた第三の計画案を即興で計画することにした。大切なのは2つの妥協案を考えるのではなく、さらに発展させた第三の計画案を作るといことである。

今回の設計の特徴は一人のところがった意見ではなく、対話を大切にしたことである。そこには、WSに参加した隈氏をはじめ学生や教員、施設管理者としての県職員、また、実際の利用されるお母さんや子どもたち等、様々な人との対話が含まれる。

ここで、コンセプトがぶれだすと建物の設計自体が不安定なものになってしまう。そこで、基本コンセプトとしての「森の入り口」施設として、「みんなが居心地のいいところ」を意識して計画や各種性能をまとめていった。



第三の計画案のイメージ



morinosを南東から見る。手前はいろいろな素材が敷かれた「はだしの広場」



ファサードのヒノキ丸太によるV柱



学生有志による伐倒 1本だけ与岐(斧)による三ツ紐伐りを行った。

3. 象徴的なファサードのV字柱

建物のファサードには、100年生のヒノキ丸太によるV字の柱がある。来訪者の印象に強く残るV字柱のアイデアは、設計WSで共有された。隣接する森の情報センターの丸太樹状立体トラスに対して、シンプルで直線的な力強い構造で、対の建物としてお互いを強調させた。

学生が構造試算したサイズは、丸太の末口径で330mm(胸高直径450mm程度)、7mの通直な丸太である。

この丸太の素性には特にこだわり、本学演習林で調達を行った。はじめに、演習林の林齢マップと現地踏査から100年生ヒノキを15本程度選木した。

乾燥が難しい丸太は、5月にチェーンソーの根元への突っ込み切りによって通水がある程度遮断し立木のまま水分量を抑える工夫を施した。さらに2か月後の7月末に、山の上側に倒す上方伐倒で葉枯らし乾燥させた。

4. 様々な木材利用

ヒノキ丸太以外にも、様々な木材の利

用を試みた。代表的なものをいくつか紹介する。

・樹皮付き方立

室内外を隔てるガラスの方立は、外部側に樹皮を残し、室内側は製材・加工された材を見せることで、木材の利用過程を視覚的に表現した。樹皮を残した乾燥は難しいが、今回は遠赤外線木材乾燥機の気流感をなくした乾燥法で実現した。

・表層圧縮木材

半屋外デッキのピロティは、敷地周辺で多く植林されている杉材を用いた。ただ、杉は耐摩耗性が低く、腐朽菌による木材の生物劣化に不安が残る。そこで、AZN防霉・防蟻処理+表層圧縮という加工を施し、生物劣化対策と耐摩耗性を高めた。

・杉圧密フローリング

室内も土足利用であるが、生物劣化の心配がないため、耐摩耗性を高める杉の全面圧縮を採用した。内部までしっかり圧縮(50%の体積まで)することで、ナラ材と同等の硬度まで高めた。

これ以外の構造や家具に関係する木材利用提案については別の機会に紹介する。

5. ウッドマイルズによる木材輸送の環境評価

日本の木材自給率は41.8%(林野庁・令和2年木材需給表より)であり、6割近くを外材に頼っている。一方、morinosで使用された木材は、合板・家具に至るまで、全て岐阜県産材にこだわった。

これを木材の輸送距離に関する環境指標であるウッドマイルズで読み解いてみる。

ウッドマイルズの主な指標は3つである。木材1m³あたりの平均輸送距離を示す「ウッドマイルズ」、山から現場までの経路把握の割合を示す「流通把握度」、外材併用の場合と比較して輸送過程のCO₂排出量の削減割合を示す「CO₂削減率」である。

＜総合評価＞		
【地域の林業・木材産業への貢献】	★★★★★	AAA
★★★★★ ウッドマイルズ	123 km	AAA
【木材のレーゾリアの貢献】	★★★★★	AAA
★★★★★ 流通把握度	77.5 %	A
【木材の輸送コスト削減】	★★★★★	AAA
★★★★★ CO ₂ 削減率	80.3 %	AAA

morinosのウッドマイルズ評価

例えば、V字丸太は敷地内のヒノキであるが、加工は県内の加工場で行った。本学から加工場までは51.9kmである。往復距離でウッドマイルズは103.8kmとなる。他の木材の平均を取るとウッドマイルズは123kmであった。

もし外材を使用していると、ウッドマイルズは、米松で約8,200km、欧州材で約21,400kmとなる。morinosのウッドマイルズ123kmがいかに近くの山の木でつくられているかがわかる。これが80%を超えるCO₂削減率にもつながっている。

6. 終わりに

今回は建築計画と木材の利活用について触れた。木材は、国内で再生産できる建築材料で炭素を固定してくれる素材である。また、経年変化も美しくできることから、各地で木造建築が注目を集めている。木材の特徴を活かした活用が広がることを期待する。

morinosのより詳しい内容は建築秘話 (<https://www.forest.ac.jp/facilities/morinos/>) を参考

岐阜県立森林文化アカデミー
教授 辻 充孝



杉本実板 天井

杉CLT 水平構面

桧大断面集成材 大梁

樹皮付き杉の方立

圧密杉 フローリング

表層圧縮杉 デッキ材

様々な木材利用

建築家資格制度座談会

●日時:2022年2月24日(木) / ZOOM使用にてweb座談会

1.活動の概要

職能・資格制度委員会では、JIA活動の基軸である「建築家資格制度」について1回/月程度を基本に、委員会を開催し、登録建築家についての課題や会員への情報提供の方法などについて議論を行ってきた。

2.建築家資格制度座談会の開催

活動の一環として、建築家資格制度について議論する会員どうしの意見交換の場を企画した。座談会としては、本来同じテーブルを囲んでのコミュニケーションとしたいところだが、昨年に引き続きコロナ禍でもあり、ZOOMを使った建築家資格制度座談会を2月24日(木)に開催し、26名が参加した。(登壇・運営者5名、一般参加者21名、CPD2単位)

座談会は2部構成とし、資格の背景、歴史、登録建築家の概念、課題の説明を行った。難しい問題であり、何か結論や方向性を出すのではなく、フリーな意見交換の会とすることを目的とした。

<第1部>

第1部は、職能・資格制度委員会の昨年からの振り返りと今後の報告を行った。

①「資格制度準備WG/特別委員会設置について」水野豊秋氏(東海支部長)より本



ZOOM使用によるオンラインセミナー

部活動報告として、建築家資格制度について、総合的に検討する委員会等を設置する方向で動き出している説明を行った。

②「登録建築家パンフレット案」野々川光昭氏(職能・資格制度委員)より、社会認知のためのプロモーションを紹介した。

<第2部>

第2部では、野々川光昭氏をモデレーターにゲストスピーカーによるレクチャーと参加者からの意見交換を行った。

①「建築家資格制度のこれまで」植野收氏(前本部職能・資格制度委員)より、建築家資格制度の歴史について、年表をベースにJIA設立当初からの経緯や実務訓練による認定などについて解説を行った。

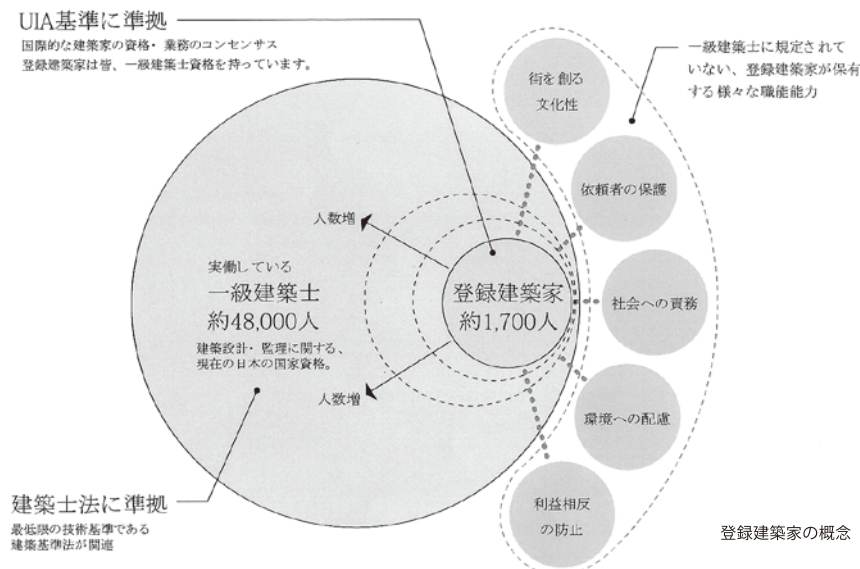
②「英米の建築家資格とUIAアコードについて」加藤彰一氏(三重大学工学研究科元教授・工学博士)より、海外での教育や建築家資格制度について、要件の説明を行った。

③「建築家資格制度の歩みと私の思い」石田壽氏(東海支部監査・愛知地域会顧問)より、登録建築家の要件、社会に対する認知についての思いや疑問点を説明した。

座談会では、主に利益相反、公益保護といった登録建築家の社会的役割が議論になった。登録建築家になることの意義を再定義する必要があると考える。

3.今後の活動について

会員の方からのヒアリングや情報交換の場は継続的に開催し、比較的少人数で自由に話し合いができる場を企画したいと考える。また、登録建築家になることでのメリットを整理していくこともポイントである。例えば、プロポーザル参加での加点要素など、発注者への広報活動も重要と考える。ベテランの方もこれからのJIAを支える若い方も、積極的に参加できるような活動を行っていきたい。



杉本 憲治 (JIA愛知)

枠設計



環境セミナー「マイクロプラスチックと海洋汚染」

●日時：2022年2月18日(金)

●講師：四日市大学環境情報学部教授 千葉 賢 先生

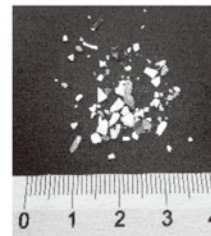
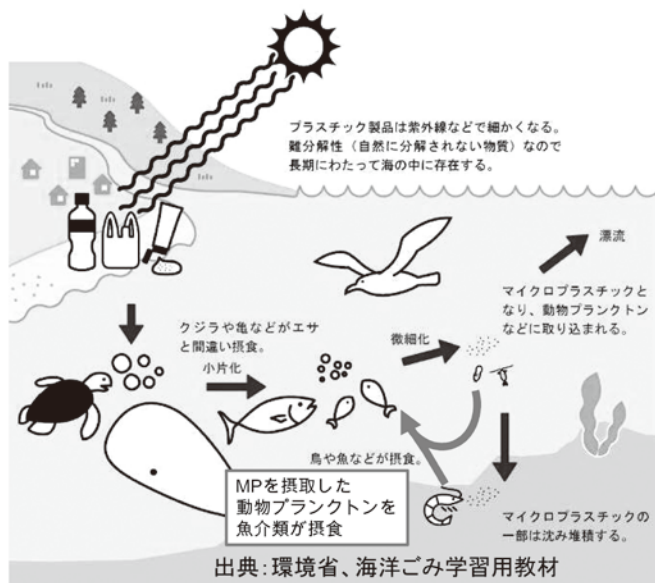
令和4年2月18日、例会のあと、「マイクロプラスチックと海洋汚染」と言うテーマで、オンライン開催の勉強会を行いました。講師は、四日市大学環境情報学部教授、千葉賢先生にご講演いただきました。

千葉研究室では、四日市市吉崎海岸のマイクロプラスチック(以降MPと表記)の定期調査。又、水田等で使用される徐放性肥料(窒素肥料)のMP製被殻が生態系に及ぼす影響について研究されており、伊勢湾の魚類の消化管内のMPについて調査をされています。

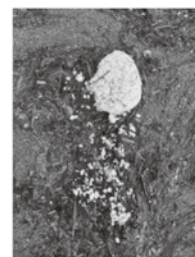
建築ではプラスチックが建材として使われている部位もあり、MPと直接的な関係は無いにしろ、間接的に影響は生じているはずであり、MPと環境への影響を勉強することは大切なことと思われまふ。ここでは、勉強会で教えていただいた普段知り得ないMPの概要を報告したいと思います。

まず、MPの何が問題なのかを確認する必要があります。MPとは、5mm以下のプラスチックを指します。プラスチックは海岸に漂着すると紫外線による劣化、波にもまれて粉碎、朝夕の寒暖差による分解などでどんどん小さくなります。これが餌と間違ひ海洋生物に食べられる事により微塵化し動物プランクトンに取り込まれます。ここが問題で、動物プランクトンは生態系の底辺に位置するため、それを捕食する海洋生物の生態系全体に影響を与えることとなります。又、何が危険なのか。プラスチックには添加剤や、成形時に不純物が混じっています。さらに漂流中に有害物質が吸着します。それが海洋生物の中に取り込まれると生体に健康被害を及ぼす可能性が指摘されています。研究では、魚の筋肉中にMPが見つかり、特に日本人は刺身を食ふことから危険であると報告されています。さらに、細かくなっ

マイクロプラスチックと生態系の関係



日本列島から1000km離れた太平洋上で採取されたマイクロプラスチック



2次マイクロプラスチックへ分解中の発泡スチロール

たMPは、嵐の時に大気中に舞い上がり、いずれ陸地までもを汚染する恐れがあると言われています。

では、海洋プラスチックの発生源はどこでしょうか。主にポイ捨てと意図しない流出(保管している物が不注意で流出)とのことです。プラスチック製品の中で最も多いのは使い捨てプラスチックです。又、先生が危惧しておられるのが徐放性肥料によるプラスチックです。徐放性肥料とは、肥料の廻りをプラスチックでコーティングしたもの。肥料が徐々に溶け出していき最後にプラスチックの殻が残るという肥料です。農業従事者でないと触れる機会は無いと思いますが、水田の3~4割に使われているそうです。追肥なくして良いため、省力化のため使用されています。これが代掻きの時に浮上し、河川に流出するというのです。

先生が調査されている伊勢湾の海洋ゴミは、木曾川から伊勢湾に流出し、主に三重県側に沿って流れます。主な種類は徐放性肥料プラスチック、レジンペレット、硬

質プラスチック片、発泡プラスチック片、人工芝片、等。特に上に述べた徐放性肥料の樹脂被覆は大量に漂着しているとのこと。海岸に漂着するには風の力が必要であり、伊勢湾に吹き下ろす風が伊勢湾出口の鳥羽市答志島あたりに向かって大量に使い捨てプラスチックを運んでいるとのこと。

それでは、海洋プラスチック問題への対処法ですが、とにかく海洋に流出させない。そのためには、プラスチックの徹底管理による流出防止、使い捨てプラスチックの抑制が必要です。

以上、簡単にMPの概要を記載しましたが、このような勉強会がないと知らないことばかりであり、拝聴して勉強になりました。

西出 章 (JIA三重)

森永建築設計事務所



「緑萌え出で花は近く・春は還る」希望の蝶春!

3月末原稿締切・5月号掲載の本欄にお声がけいただき、またとない時宜を得て気儘に趣味の蝶の話を書きます。

コロナとロシアに震撼の早春ながら「四温」の日は心を奮っては、田舎暮らし恒例の「春探し」に出かけます。若草の土手を散策中不意に、とっくに忘れていた標記フレーズとメロディーが脳裏に覚醒したのです。・・は「学びの窓に」との中学時の卒業歌ですが、私的には「蝶舞う里に」という心情でした。

折から、3/13(日)は幼少からの地元生物同好会総会に出席、翌週はブログ仲間の「蝶」写真展・翌々週は高校生物部OB会写真展「自然と共に」など続々、昔馴染みの自然児たちも蠢き始める候、今年は大遅れの新生蝶初撮りも3/10にやっと達成できました。

想えば物心つく頃から、私はいつも蝶と一緒に育ちました。学齢前の病弱少年が偶々、庭の花で手掴みした見慣れぬ蝶が当時「内地」では記録簿の南の島からの迷蝶・タテハモドキだったとの因縁以来、同居の蝶師匠・T叔父に密着同行を志願した野山詣でが奏功し健康体を獲得できました。子育て初期にてコレクター的側面は卒業し、今は季節と場所毎の逢瀬を喜ぶ心境です。

この冬場は、コロナ禍蔓延で諸活動停滞はもとより、親世代や近い同輩たちの去就も相次ぎ、名実とも「寒気」の居座りが一際長かった感があります。でもやっと、自然界も人社会も新生の息吹が確実に力強く脈動を始めました。それでも「春は還る」時節、疲れ気味のベテラン「蝶屋」も全てに奮起せねば・・



大好きな早春の里の蝶から：ツマキチョウ



鈴木 利明 (JIA愛知)

デザイン スズキ

ちょっと気になる移ろい

名古屋の桜の名所の一つに山崎川がある。名古屋市東部の千種区猫ヶ洞池を水源とし昭和区、瑞穂区、南区と南下して名古屋港に注ぐ。その中で昭和区の南端の石川橋から瑞穂陸上競技場の際の可和名橋までの約2キロの河岸に600本ほ

どのソメイヨシノが植えられているという。川の兩岸の遊歩道をそぞろ歩きの花見となるため、花と酒がセットの方には向かないが、酔っぱらいを嫌う方にはもってこいである。ここ15年ほど川の周りをウォーキングするのが日課となってい

として共感を抱くのだろうか。あと何回目にすることだろう。

また、市立大学薬学部キャンパスの北西角の川を挟んで反対側にちょっとした植込みがあり、河津桜、楊貴妃、普賢象、御衣黄、関山、寒緋桜というこの辺りではあまり目にしない品種の桜が1本ずつ植えられている。河津桜は早咲きで知られ、楊貴妃はピンクの八重花、御衣黄は緑の花をつける。開花時期や花の形、色の違いなど楽しめる。この書き物が掲載される頃には花は終わっているが、気になったら来年訪れては。



右が寒緋桜、中央のから傘ベンチの奥が河津桜(すでに葉桜)、左がソメイヨシノの並木

る。別に花見が楽しみとか、開花が待ち遠しいとか特に意識しているつもりはないのだが、蕾ができ、膨らみ、色付き、花開き、満開となり、桜吹雪が舞い、葉桜となり、葉が落ちて裸木となるその移ろいが毎年何となく気になるのである。移ろいの中に感じる命の育みや躍動感に同じ生きているもの



鈴木 慶智 (JIA愛知)

石本建築事務所

「JIA 東海住宅建築賞 2021」記録集完成



2020年度の中止を経て、どうにか開催に至った「JIA東海住宅建築賞2021」の

記録集が完成を迎えます。コロナ禍による制限が未だに続くなか、関係各者／各所のご協力のもと、まずは無事、2021年度の事業を完了させることができたことに感謝申し上げます。

さて、2年ぶりの開催となる2021年度は、審査委員長に山本理顕氏(山本理顕設計工場)、審査委員に中山英之氏(中山英之建築設計事務所)、島田陽氏(タトアーキテクト/島田陽建築設計事務所)のお三方をお迎えしました。記録集では、公開一次審査ドキュメント、公開最終審査ドキュメントとして、審査員各氏がどういったクライテリア(評価軸)でジャッジしていったのかを克明に記録しています。受賞作品だけではなく、審査委員が票を入れたものの現地審査に至らな

かった作品に対する講評からは、手に汗握る僅差での現地審査作品の選定であったことが読み取れます。記録集には2019年度の優秀賞を受賞された河内一泰(河内建築設計事務所)氏による読み応えのあるコラムも掲載しています。

事務局では2022年度の審査員の選定にあたって、過去に応募された建築家へ、推薦を募っているところです。応募者がつくるアワードとして新しい動きを見せる同賞の展開にご注目下さい。

脇坂 圭一 (JIA愛知)

静岡理科大学
ヒュッゲデザインラボ



三重地域会会報アーキテクトみえ 32・33号を発行しました

三重地域会では、2年毎に地域会の活動記録をまとめた会報をつくっています。JIAの認知度向上のため、県内の行政、図書館、大学や地域会のイベント時には一般の方にも配布しています。一般の人にも読みものとして興味を持ってもらえるよう特集記事を掲載しています。特集のテーマは地元三重県にかかわるものを毎回選定しています。今回のテーマは県内の空き家対策についてとしました。この2年間コロナ禍で社会は停滞気味でしたが、伊賀市では全国数カ所で古民家をホテルとして再生利用するNIPPONIA HOTELが開業したり、南伊勢町では国の空き家対策のモデル事業となる地元人材活用の実績がメディアで取り上げられたりと、目立った事例が出

てきています。これまで長年にわたり、町並み回復などを行ってきた伊勢市河崎や亀山市関宿の活動とあわせ、県内の空き家対策の現状を三重地域会のメンバーが取材しました。特別寄稿として、経済論を研究し、県内の市街地活用の社会活動をされている三重大学豊福裕二教授に寄稿いただきました。地元建築家の町並み保存への関わりや建築以外の人たちの空き家利用の現況を見ていただき、身近な地域の問題解決の一助として役立つこと、掲載事例の実況とその地の魅力を感じに、三重を訪れていただくことを期待しています。

発行部数が限られておりますので、JIA三重地域会のホームページ上のPDF版でご覧ください。



●JIA三重地域会ホームページ

<https://www.jia-mie.com/>

※なお実誌を希望の方は……………

JIA三重地域会事務局:日新設計 担当 加藤教子

TEL.059-227-7421/FAX.059-225-7854

e-mail : jia-mie@nisshin-sekkei.com

にお問い合わせください

服部 昌也 (JIA三重)

八武組



砥鹿神社奥宮は本宮山(愛知県豊川市、岡崎市、新城市の3市にまたがる標高789mの山)の山頂付近に位置し、山麓の里宮とで二所一体の三河国の筆頭神社一之宮です。主祭神は大己貴命(おなむちのみこと)で、奥宮の創建は神代とされています。大宝年間(701~704年)に文武天皇の病を鎮めるため派遣された草鹿砥公宣(くさかどのきんのぶ)が神託を受け、元々あった山の奥宮に対して麓の里へも社殿を造営し、以来、里宮との二所一体となりました。

奥宮へは本宮山スカイラインを上って車でアクセスすることも可能ですが、麓の上長山登山口から約2時間半の徒歩で、静謐かつ豊かな自然を満喫しつつ参拝



麓の上長山登山口にて山に入る

参道中間の馬の背岩

することもできます。東三河平野のどこからも望める本宮山は古代から山自体を御神体として信仰する山岳信仰の対象であり、自然林は神域として保護されてきました。

ツガ、モミ、イヌガヤなどの針葉樹やアカガシ、サカキ、ツクバネガシ等の常緑広葉樹林など標高700mでは珍しい暖地性植物が多く、愛知県天然記念物に指定されています。山中に横たわる巨巖(きょがん)や樹齢1000年を超える御神木の杉などの巨木の存在は、神々の鎮まる磐座(いわくら)・磐境(いわさか)として崇められ、その御神徳を慕って、山頂の奥宮へ登拝する人々は年中絶えることがありません。

登山口から奥宮までは石標が順に1~50丁目まで建っていますが、特に21~40丁目は大きな岩の段差や木の根が張り出した急な斜面が続く、かなり登りごたえがあります。その末にたどり着く50丁目



奥宮社殿

の奥宮は一層荘厳に感じられます。参道や山頂からは三河湾や三河の山々、天氣が良ければ遠く富士山や南アルプスなど、素晴らしい眺めが楽しめます。

【概要】

所在地 / 奥宮: 愛知県豊川市上長山町本宮下4
里宮: 愛知県豊川市一宮町西垣内2
創建 / 奥宮: 不明(神代以降)
里宮: 大宝年間
構造 / 木造
電話 / 奥宮: 0533-93-2057
里宮: 0533-93-2001

中澤 賢一 (JIA 愛知)
堀内建築研究所



編集後記

●ここ数年、脱・炭素に対する取り組みが世界で加速している。木造の可能性・重要性が再認識される中、今

号から始まった連載「morinosに見る木造建築の設計手法」では、岐阜県立森林環境アカデミーの様々な取り組みが紹介され、非常に興味深い。ウッドマイルズ管理を徹底している点に特に共感する。その他の木材利用提案についても、今後の連載で紹介いただけることを楽しみに待ちたい。近隣に森林が多いこの東海圏でこそ、より都市の木質化を図りやすいと考える。他方で、JIA三重発活動報告で取り上げられたマイクロプラスチックによる海洋汚染も深刻な問題だ。先日、生きた人間の肺や血液の中からマイクロプラスチックが検出されたとのトピックもあったばかり。

建築行為において脱プラを考えさせられる。果たして我々は、地球との共生の道を見つけれられるのか、それとも、既に手遅れで、地球外への脱出、エクソダスを余儀なくされるのか。(降旗 範行)

●『ARCHITECT』の編集に関わるようになって4年が経ちました。その間、『ARCHITECT』の継続に様々な議論がなされ、ページ数を減らして再スタートを切りました。地域会特集など東海支部ならではの情報発信で盛り立てていこうという矢先に、コロナ渦で記事になる活動も少ない状態となってしまいました。現在、静岡地域会は会員減少が著しく50名を切っています。このような苦しい状況の中でこそ『ARCHITECT』の存在がとて重要であると考えています。服部さんが三重地域会会報誌「アーキテクトみえ」の紹介をしている文章にもありましたがJIAの認知度向上のため、また4地域会を活性化する場として、今

後とも魅力ある誌面作りをすることで、良い方向に導いていただきたいです。4年間、ありがとうございました。(大橋 康孝)

ARCHITECT

第404号

発行日 2022.5.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込)

発行責任者 水野豊秋

編集責任者 川本直義

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会プリテン委員会
株式会社イツミ内

ARCHITECT 編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564)21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail: shibu@jia-tokai.org

http://www.jia-tokai.org/

コルゲートハウス「川合健二邸」報告 その3

この報告も3回目。日々の忙しさのなかで、特に年度末の雑用に追われて、原稿締切を延ばしに伸ばしていただき、申し訳ない限り。富田さんにしても、普段のお忙しい実務の傍ら、「コルゲートハウス」の片付けごとや、「FOOD FOREST」の事業推進もままならぬことと推察します。(まあ、ゆっくりやればいいじゃないか、という向きもありますが、)

とはいえ、一昨年度中、多くの支部・地域会方々のご尽力により「本部事業活動助成」の枠を得て、コロナまん延により今年3月(昨年度末)までの猶予が許されたものの、当初計画した「セミナー・講演会」のような集合形式のイベント開催は未だ慎重さを求められることから、実施に至りませんでした。しかし、このコロナ禍の2年間でオンラインによる会議やWEBセミナーなど、画面越しのやりとりにも慣れてきました。WEB配信による情報発信も重要度を増しています。

「コルゲートハウスの現在」について、「映像」に残しておくことが、現地を訪れたり、集まったりできない現在においては、まずは重要

ではないか、との思いに至りました。これも、コロナ禍の中での「功」だと理解しました。

そこで、地元豊橋の友人で、映像作家として、水上ビル(※1)の3軒隣りで、アトリエ「冷や水(ひやみず)」(※2)を構える山田晋平さん(※3)に撮影と映像編集を依頼することにしました。彼とは、2016年に豊橋も会場となった「あいちトリエンナーレ」での活動を通じて知り合い、地元大学で教職にあった彼がその後、独立を機に「水上ビル」を活動拠点に選んでくれたことでさらに親交が深まりました。本来のフィールドは、「舞台」を中心とした映像の制作や記録などですが、「舞台」もコロナ被害が直撃する分野のひとつです。ここでも「映像」の重要度は増えています。劇作家・演出家の岡田利規さん(※4)の主宰する「チェルフिटチュ」とのコラボレーションにより「映像演劇」という新しいカテゴリーに挑むなど、表現の幅を大きく広げています。(アトリエ「冷や水」は、岡田さんの命名とのこと)

元々、豊橋に縁のなかった、もちろん「コルゲートハウス」のことも詳しく知らなかった彼

の眼を通して、この建物やそれを取り巻く環境が、現在どのように見えているか?には個人的な興味もあります。

富田さんの合意も得て、去る1月中旬頃、室内の片付けも進んだ「コルゲートハウス」内でインタビューを敢行しました。「コルゲートハウス」自体や「川合健二」については、すでに語り尽くされており、改めて語るにも多くの時間を要します。それよりも購入前後から現在に至る経緯やご苦労話し、「コルゲートハウス」の修繕や維持管理、公開への道筋について、また、千五百坪もの敷地の活用などについて伺いました。インタビューを含めた映像は、編集し、著作権や許可などの確認を経て、発信媒体を検討のうえ、今年度中に公開致しますので、お楽しみに。



黒野 有一郎 (JIA愛知)
一級建築士事務所 建築クロノ

【註】

(※1) 水上ビル: 豊橋駅前の農業用水路上に建つ、長さ800mのコンクリート3~5階建ての建築群 本誌2014年12月号/2015年2月号「建築家はリージョンをもつ」に掲載記事

(※2) 冷や水YouTubeチャンネル:https://www.youtube.com/channel/UCwyj1dOlijs19k1fRxb_0Mw/videos

(※3) 山田晋平:<https://yamadashimpei.com/> (※4) 岡田利規「チェルフिटチュ」:<https://chelfitsch.net/>



建物の突飛な外観や構造の独自性はさることながら、特にエネルギーのあり方において、自然との共生という現代的な観点を先取りする、極めて社会性の高い思想を持っているのが川合さんで、その思想が最もソリッドに具現化しているのが、このコルゲートハウス第1号なのだと思う。富田さんとクロノさんのインタビューを通して、お二人が「建築という仕事を通して、社会を良い方向に変化させることへの希望」を川合さんの内に見出し、それをリスペクトしていたのだと感じた。

常識は、一気に広範囲で変化することはない。どこか世界の端っこのようなところで、ポツンと実験的な思想を実践するひとが現れ、ひとつの雨粒が静かな水面におこす波紋のように、時間をかけて広範囲に伝播して、ゆっくり社会が変わっていくのだと思う。川合さんの問いかけはいまなお有効で、むしろより切実に、広く社会化している。最初の一滴の水紋が消えることなく、今後もわたしたちの社会に建設的な揺らぎを作り出し続けることを、期待している。



山田 晋平
(舞台映像作家)
株式会社青空代表

■プロフィール

演劇やコンテンポラリーダンスを中心に、オペラ、コンサートなど様々な舞台芸術の上演内で使用される演出映像の製作が専門。豊橋市駅前エリアの水上ビルにアトリエ兼住居「冷や水」をオープン。地域に対する芸術普及活動も積極的に行っている。